

外為ウィークリービュー I 北米編

先週までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2011/08/22

バーナンキFRB議長発言に注目

通貨ペア	基調		ページ数
ドル/円	➡	戦後最安値の再更新の可能性も残る 予想レンジ: 75.50 ~ 78.50 円	2 - 3
カナダ/円	➡	株価下落が一服なら反発余地 予想レンジ: 76.80 ~ 79.70 円	4 - 5
経済指標 カレンダー	一週間の予定を一覧で表示		6

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

USD/JPY

ドル/円 8/15～19の主な推移

※4時間足



8/15 Monday	<p>前週末の米株高や、8時50分に発表された本邦4-6月期国内総生産(GDP)・一次速報(実質)が前期比年率-1.3%と予想(-2.5%)ほど悪い結果にならなかったことを好感し、日経平均株価が寄り付きから上昇。これを受けてクロス円(豪ドル/円、ユーロ/円など)が上昇すると、ドル/円は77.08円まで連れ高となった(①)。しかし、77.00円台では上値が重く、日経平均が上げ幅を縮小しクロス円の上値も抑えられると、ドル/円も失速。さらに、米国市場に入り対ユーロでドル安が進んだ上、21時30分発表の米8月NY連銀製造業景気指数が-7.72と(予想:0.00)、22時発表の米6月対米証券投資が+37億ドル(同:350億ドル、ネット長期フロー)と予想より弱い結果になったことでドル売りの流れに拍車がかかり、76.59円まで下落した。</p>
8/16 Tuesday	<p>夕方、欧州株の軟化を受けてクロス円が下落すると、ドル/円も76.65円まで連れて下落した。しかしユーロ/円がショートカバーなどにより上昇に転じると、ドル/円も反発。さらに、22時15分発表の米7月鉱工業生産が前月比+0.9%と予想(+0.5%)を大きく上回ったことや、格付け会社フィッチが米国のAAA格付けを維持し、見通しを「安定的」としたことを背景に76.93円まで反発した。ただし、その後米国株が軟化しクロス円が値を下げると、ドル/円も上げ幅を縮小した。</p>
8/17 Wednesday	<p>日経平均が軟調に始まったことを受け、朝からクロス円主導でドル/円も下落。さらに欧州市場に入るとドル/スイスやユーロ/ドルでドル安が進むと、ドル/円でもドル売りが優勢となり、米国市場序盤に76.40円まで値を下げた(②)。</p>
8/18 Thursday	<p>正午過ぎ、中尾財務官が「日銀の中曾理事と為替市場等について意見交換を行った」など発言したことで政府・日銀による円売り介入への警戒感が強まり、ドル/円は76.71円まで上昇した(③)。しかし上値は重く、その後はもみ合い。しかし、23時発表の米8月フィラデルフィア連銀景況指数が-30.7と市場予想(2.0)よりも大幅に悪化したことを受けてNYダウ平均が一段安となり、クロス円が大きく下げると、ドル/円は連れて76.45円まで下落した。</p>
8/19 Friday	<p>9時過ぎに野田財務相が株安について「市場を注視する」と発言すると、円売り介入についての思惑から76.93円まで急騰した(④)。しかし、仲値公示後も介入がなかったことを確認すると、ドル/円は急反落し、その後は76円台半ばでもみ合いとなった。ただ米国市場に入り、ウォール・ストリート・ジャーナル紙の報道として中尾財務官が「頻繁に介入する計画はない」等との認識を示したと報じたことが伝わるとドル/円は軟化。23時14分頃にストップスを巻き込みながら下げが加速し、23時15分には75.94円の戦後最安値をつけた(⑤)。ただし、依然円売り介入警戒感が残っており、すぐに76円台を回復。その後も政府・日銀が介入に向けて海外当局との調整を検討すると複数の通信社が報じたことなどを受け、引けにかけて76円台半ばまで値を戻した。</p>

巻末の特記事項を必ずお読みください。

USD / JPY

上昇要因(ドル高・円安)

- ・米政策金利の早期引き上げ観測
- ・米長期金利の上昇
- ・米金融緩和策の巻き戻し観測
- ・日本の財政悪化懸念
- ・日銀による追加金融緩和への期待
- ・(本邦およびG7による)円売り介入

下落要因(ドル安・円高)

- ・米超低金利政策の長期化観測
- ・米長期金利の低下
- ・外貨準備通貨としてのドル需要の減退
- ・米財政赤字悪化懸念の高まり
- ・米追加金融緩和観測の台頭

今週の見通し

先週のドル/円相場は75.94円～77.08円のレンジで推移し、週間の終値ベースでは約0.4%の下落(ドル安・円高)となった。ドル/円は政府・日銀による円売り介入が入るのでは、との観測が広がる一方、世界的な景気悪化懸念を背景にクロス円が下落する中で円高が進みやすくなり、週を通しておおむね76円台でのみ合いとなった。ただし、19日についてはストップを巻き込みながら戦後最安値を更新するなど、波乱含みの展開だった。

今週の米国では、23日に7月新築住宅販売件数および8月リッチモンド連銀製造業指数、24日7月耐久財受注、25日に新規失業保険申請件数、26日に第2四半期国内総生産(GDP)・改定値などと、22日を除いて毎日のように経済指標が発表される他、国債入札(23日:2年債、24日:5年債、25日:7年債)が予定されており、手掛かり材料は比較的多い。ただし、目下のところ市場の関心を集めているのは、日本の政府・日銀による円売り介入の可能性や、26日の23時に予定されている米連邦準備制度理事会(FRB)のバーナンキ議長による講演だ。特にバーナンキFRB議長の講演については、去年、量的緩和第2弾(QE2)を示唆する発言をしたことで、ドル/円ではドル安が進んだことや、足元の米経済の弱い状態などを鑑み、今回の講演でQE3の導入を示唆するような発言をするのでは、という期待が強い。実際にそうした発言、あるいははっきりとQE3導入を宣言する場合、全般的にドル安圧力が掛かる見通しだ。一方、期待がやや先行している面もあるため、もしそうした示唆がなかった場合、一旦ドル高が進む可能性もある。今週はこの講演を睨み、25日までは相場に大きな動きは出にくい展開になりそうだ。

なお、引き続き円売り介入が入る可能性が意識されており、その警戒感が一定程度相場を下支えすると見る。とはいえ、先週末のように再びストップを絡めながら急落し、瞬間的に戦後最安値更新という展開も視野に入れつつ取引したい。また、円売り介入が実際に入れば、下記レンジを大きく上回ることがある点も併せて指摘しておきたい。(ジェルベズ) (予想レンジ: 75.50～78.50円)

巻末の特記事項を必ずお読みください。

CAD/JPY

カナダ/円 8/15～19の主な推移



8/15 Monday	前週末の海外株高に加え、本邦4-6月期国内総生産(GDP)・一時速報が前期比年率-1.3%となり事前予想(同-2.5%)ほどには落ち込まなかった事を好感して、日経平均株価が一時150円超上昇すると、カナダ/円は買い優勢となった。その後のNY市場でも株価が終日堅調に推移。NYダウ平均株価が200ドル超上昇すると、カナダ/円は78.40円まで上昇した。リスク回避志向が後退する中で、原油価格が2ドル超上昇した事もカナダ/円の上昇要因となった。(①)
8/16 Tuesday	前日の流れを引き継いで、カナダ/円は早朝に78.48円の高値を付けたが、日経平均株価の上値が伸びず、伸び悩む展開となると、カナダ/円も徐々に上値を切り下げた。さらにその後、独やユーロ圏の第2四半期国内総生産(GDP)が予想を下回り、前期から減速した事を嫌気して欧州株が下げ幅を拡大すると、カナダ/円は77.67円まで下落した。しかしその後は米7月住宅着工件数や米7月鉱工業生産が予想を上回った事を好感して時間外のNYダウ先物が下げ幅を縮小するとカナダ/円は78.30円まで反発した。(②)
8/17 Wednesday	NYダウ平均株価が一時120ドル超上昇した事や、原油価格が89ドル台目前まで上昇した事を背景にカナダ/円は78.30円まで上昇したが、その後、米パソコン大手デルが売上高見通しを引き下げた事をきっかけに、NYダウ平均株価が下落に転じると、カナダ/円は再び78円を割り込んだ。(③)
8/18 Thursday	NYダウ平均株価が取引開始直後から大きく下げる中、米8月フィラデルフィア連銀景況指数が市場予想よりも大幅な悪化となった他、米7月中古住宅販売件数も予想を下回った。これらを受けてNYダウ平均が一時520ドル安を超えて下げ幅を拡大すると、カナダ/円は76.92円の安値を付けた。(④)
8/19 Friday	本邦財務省の中尾財務官が米紙とのインタビューで「為替市場に頻繁に介入する計画はない」と述べた事が伝わり、ドル/円が一時戦後最安値となる75.94円まで下落した事につれてカナダ/円も77.00円まで急落する場面があった。しかしその後は、安く始まったNYダウ平均株価や原油価格がプラス圏に持ち直した事を受けて77.60円台まで反発した。(⑤)

巻末の特記事項を必ずお読みください。

CAD/JPY

上昇要因(カナダドル高・円安)

- ・世界経済回復期待の高まり
→リスクを取ることへの積極性が増す
- ・カナダ中銀の追加利上げ観測
- ・原油など資源価格の上昇
- ・日銀の追加金融緩和への期待
- ・(本邦及びG7協調による)円売り介入

下落要因(カナダドル安・円高)

- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念
→リスクを取ることに消極的になる
- 日米(主要国)株価の下落
- ・原油などの資源価格の下落
- ・カナダ中銀の追加利上げ観測の後退
- ・中国など新興国の引き締め観測

今週の見通し

先週のカナダ/円相場は76.92円～78.48円のレンジで推移し、週間の終値ベースでは約0.2%の小幅下落(カナダドル安・円高)となった。この間、NYダウ平均株価は約4.0%の下落、原油価格(WTI期近物)は約3.0%の下落となっている。株価や資源価格の下落割合に比べるとカナダ/円は小幅な下落にとどまっており、ここまで7週連続で陰線を記録しているカナダ/円の下値余地は小さくなりつつあるのかもしれない。19日に、ドル/円が一時戦後最安値を記録した事で本邦当局による円売り介入への警戒感が広がっており、円全体の上昇を抑制している面もある。また、今週26日に行われる米ワイオミング州・ジャクソンホールでの各国中銀との会合で、バーナンキ米連邦準備制度理事会(FRB)議長が追加緩和などの米景気下支え策に言及するとの期待が根強く、今週は主要国株価の下落が一服する可能性もありそうだ。今週のカナダ/円は、本邦当局による円売り介入への警戒感と、米追加緩和期待を背景とした株価の堅調推移から、底堅い推移が予想される。目先の上値の目途は、20日移動平均線の79.22円、8月高値・安値の半値戻し79.72円。下値の目途は、8月11日安値の76.79円、ボリンジャーバンド2シグマ下限の75.75円(22日現在)。(神田)

(予想レンジ:76.80円～79.70円)

経済指標カレンダー (8/22~26)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
8/23	15:00		(スイス) 7月貿易収支	+17.7億CHF	—
(火)	18:00	◎	(独) 8月ZEW景況感調査	-15.1	-25.0
	18:00		(ユーロ圏) 8月ZEW景況感調査	-7.0	—
	21:30	○	(加) 6月小売売上高 [前月比]	+0.1%	+0.6%
	23:00	○	(米) 7月新築住宅販売件数	31.2万件	31.5万件
	23:00		(米) 7月新築住宅販売件数 [前月比]	-1.0%	+1.0%
	23:00		(米) 8月リッチモンド連銀製造業指数	-1	-8
	23:00		(ユーロ圏) 8月消費者信頼感・速報	-11.2	-12.0
	26:00		(米) 2年債入札(350億ドル)	—	—
8/24	07:45	○	(NZ) 7月貿易収支	+2.30億NZD	—
(水)	17:00	◎	(独) 8月IFO景況指数	112.9	—
	17:00		(南ア) 7月消費者物価指数 [前年比]	+5.0%	—
		◎	(米) 7月耐久財受注 [前月比]	-1.9%	+2.0%
	21:30	◎	(米) 7月耐久財受注 [前月比: 除輸送用機器]	+0.4%	-0.5%
	23:00		(米) 6月住宅価格指数 [前月比]	+0.4%	—
	26:00		(米) 5年債入札(350億ドル)	—	—
8/25	15:00		(独) 9月GFK消費者信頼感調査	5.4	5.2
(木)	18:30		(南ア) 7月生産者物価指数 [前年比]	+7.4%	—
	21:30	◎	(米) 8/19までの週の新規失業保険申請件数	40.8万件	—
	26:00		(米) 7年債入札(290億ドル)	—	—
8/26		○	(日) 7月全国消費者物価指数 [前年比]	-0.4%	±0.0%
(金)	08:30	○	(日) 7月全国消費者物価指数 [前年比: 除生鮮]	-0.2%	-0.2%
	17:00		(ユーロ圏) 7月マネーサプライM3・季調済 [前年比]	+2.1%	+2.2%
	17:30	○	(英) 第2四半期GDP・改定値 [前期比]	+0.2%	+0.2%
		○	(英) 第2四半期GDP・改定値 [前年比]	+0.7%	+0.7%
	18:30		(スイス) 8月KOF先行指数	2.04	1.85
	21:30	○	(米) 第2四半期GDP・改定値 [前期比年率]	+1.3%	+1.1%
	21:30	○	(米) 第2四半期個人消費・改定値 [前期比]	+0.1%	+0.2%
	22:55		(米) 8月ミシガン大消費者信頼感指数 ・確報値	54.9	56.0

※発表時刻は予告なく変更される場合があります。

※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com